

「私と勝負…？
いきなりなんだ
お前そんな真面目な奴
だったか？」

(そういうことか…
真面目にやる気に
なったのかと思えば…)

「ちよっ！ひでっすよ！
昨日かっけえ技の動画
見つけたんで試合の時に
使えるか試したいんすよ」

「でもなんか技の説明
見てもよく分かんなくて
先輩がその技できるなら
教えてもらおっかなって」

「まあいい
どんな技だ？」

催眠



「これっす笑」

ズキッ！
...

「。。。」



あれ………？

私……
何してるんだっけ……？

又舌……

又千……

「んじや約束通り
先輩がイかななかったら先輩の勝ち
先輩がイったら俺の勝ちって事で」

（ああ、そうだ……こいつと
『生ハメガチセックス』で
勝負するんだった……）

「あゝでも先輩のまんこ、負けたら俺の肉便器に
なるって言うのにこんな濡れてるマゾまんこ
だから俺勝てないかもしれないっすね〜笑」

ぬちゃ……

ぬちゃ……

（そうよ……
いくら私が『チンポ入れられたらアへ顔晒す』
『変態マゾ』でもこいつに負ける訳が……）

ポ……

「あ、先輩処女だったんすね〜」

（~~~~~っ
これがセックス……っ！！
頭……真っ白になるっ！！）

「処女でこんだけヨガってアへ顔晒すとか
肉便器の才能ありすぎっすよ〜」

（イったらこいつの肉便器になっちゃうのに……っ
そんなのダメなのに……っ
チンポっ気持ち良すぎて……っ）

あ〜っ
♡♡♡

（っ？！ダメ……っ中出しされたら
「中出しした相手のおチンポ奴隷に
なる喜びでマジイキしちゃうっ！！」

「ま、待って……っ！」

ド
メ
シ
ッ
ム
メ
シ
ッ

「まあ聞いてないんすけどね笑」

「あ〜ヤバ先輩のまんこ気持ちよすぎて
もう出そう
中出しするけどいいっすよね」

あ〜っ
♡♡♡
あ〜っ
♡♡♡

「~~~~~ツ!!」

(イクツツツ!! 中出しされて
マゾアクメして
おまんこ喜んでじゃってるっ)

(だめなのに……っ
中出しされて
おまんこがチンポに
媚びちゃってる……っ)

(おチンポにマゾまんこ
屈服しちゃうーっ)



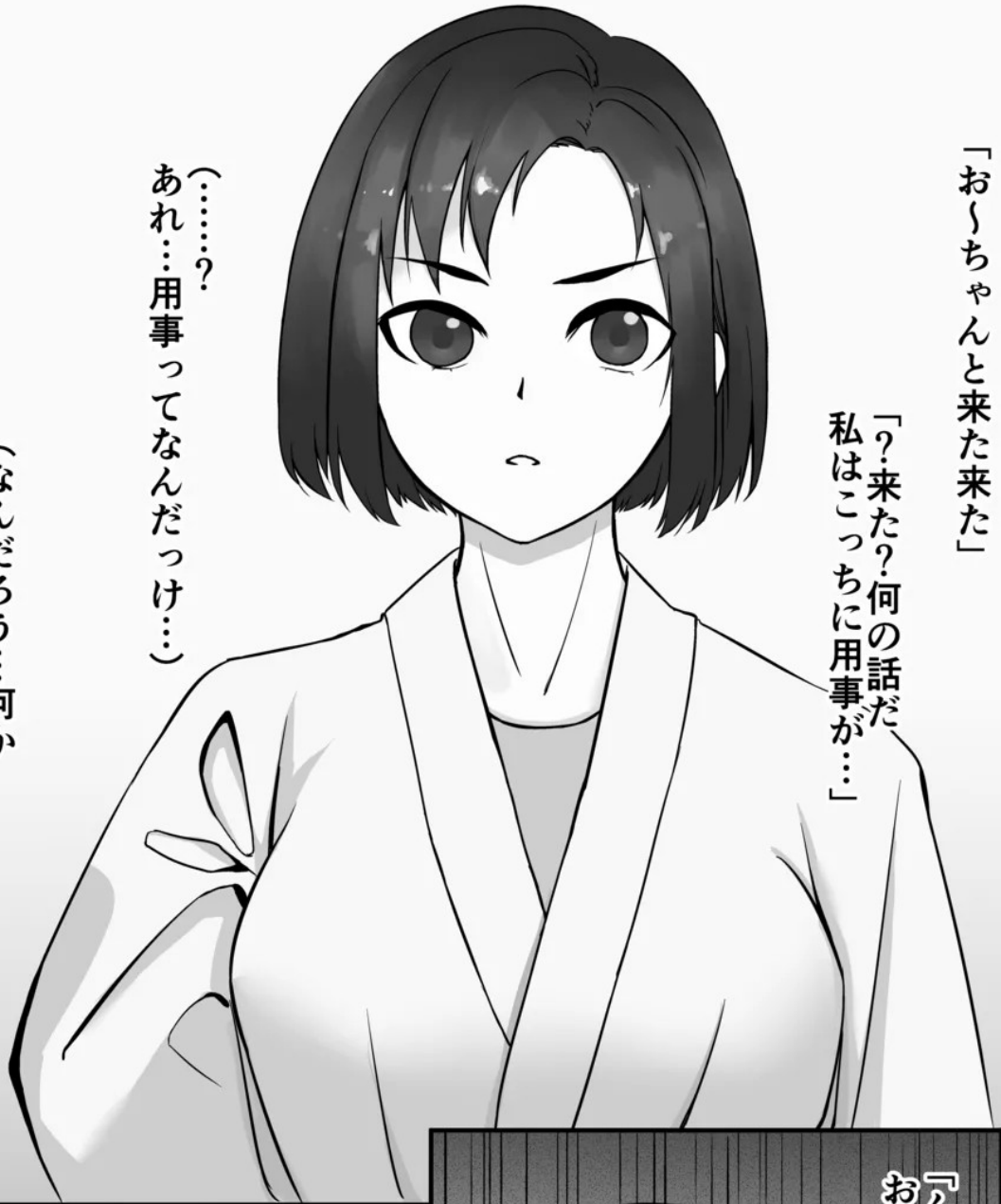


「おうちちゃんと来た来た」

「?来た?何の話だ
私はこっちに用事が…」

(…………?)
あれ…用事ってなんだっけ…

(なんだろう…何か
忘れてるような…………)



「んじや先輩ご奉仕、
お願いしますね」



「…これでいいか？」

(道着のまま
それもトイレでなんて…)

「うはっ
この前も見たけど
でけえっすね先輩
いい眺めっすわ」

「何をするのか
知らないが早くしろ」

「いやいや
何言ってるんすか」





七

し

「先輩を肉便器にしてくれた
チンポなんですから
ちゃんと先輩の『ロまんこ』で
ご奉仕してくださいよ〜?」

「わ、わかってる」

「あむ…っ……」

（おっきい…
口開けないと入んない……）

「ん…む…はあ…」

（友達と一回だけ
見たときは確かこんな感じ
だったはず……）



「んっ…はぁ…ふう…」

「んんっ…あむ…
ふー…」

クチュ…

クチュ…

（なんたの…舐めてたら
頭がぼーつとしてくる…）

（なんか…きもちいい…？）

「…ちよつと先輩？」



「なに自分だけ気持ちよくなってるんすかっ！」

「おっっっ!!？」

「ム……ム……お……お……」

「お……喉締まったままうねってくる」

「回まんこきもちい〜
イマラされてこれって
先輩まじマツの才能ありますね」

（息が……っ
頭……まっしろでなにも……）

「あーもう出そう
ほら先輩の大好きな『中出し』して
あげますよ〜」

（……っ?! いまそんなことされたら……っ）

「おらっ口まんこ中出しされてイけっ！」

「==」

